

NEMURO

# 人物図鑑

ねむろを愛する  
素敵な人たち



## 神楽を舞う心を伝えたい

瑠瑠獅子神楽保存会 会長

小田島 おだじま

義 よし

浩さん ひろ  
(41)

昭和44年に根室市指定無形文化財に指定された「瑠瑠獅子神楽」は、富山県黒部市から瑠瑠瑠に移住した三人の指導により、大正2年に光明寺（歯舞）が新築落成した際の入仏式で、瑠瑠瑠の青年らによって初めて披露されました。その後、瑠瑠瑠神社が建立され毎年の神社祭で奉納披露が行われてきましたが、戦後、神楽を受け継ぐ青年も減少し、歴史ある神楽の伝統を守るため昭和42年に瑠瑠瑠獅子神楽保存会が結成されました。現在、保存会の会長を務めるのは16歳の時から神楽を始めた小田島義浩さんです。「神楽には、伝えたい物語があります。ただ舞うというのではなく一つひとつの言葉や表現しなければなりません。何十年も舞っています。満足することはなかなかないですね。」と、神楽の奥

深さを話してくれます。地域の秋祭りに合わせ保存会の会員16名は、昆布漁の合間をぬって番屋や神社での練習を重ねます。しかし、会員は年々減少しているといいます。「後継者の育成は、保存会でも問題となっています。家業を継ぐ若者も減少し、神楽の後継者不足にもつながっています。」このことが大きな課題となっていますが、保存会では地域の小学校の希望者を対象に神楽を教えるなど、後継者育成のための活動も積極的にを行っています。昨年には、(財)自治総合センターによるコミュニティ助成を受け、96年ぶりに獅子頭など6点が整備されました。そのことが、会員はもちろん地域の方々への思いを新たにしようです。「新しい獅子頭での舞は格別です。一層気持ちを引き締めて舞っていきたいです。」この一言からも、小田島さんの神楽を愛する気持ちと、地域の伝統を大切にしたいという思いが伝わります。地域が一体となって育てていく「瑠瑠獅子神楽」は、根室の代表的な郷土芸能としてこれからも受け継がれていきます。